



アジサイ

花言葉 元気な女性 / 家族の結びつき

ニュアンスカラーのハイドラングリア
瑞々しい初夏の草木と涼しげに飾って

プロが伝授!花を長く楽しむアドバイス

- 房状の花を優しく手で広げながら通気性を良くし、花が蒸れて傷まないようにしましょう。傷んで黒くなっている部分があれば取り除きます。
- 茎は斜めにカットし、中の白い綿をナイフやハサミの先端で掻き出すように取り除くと水揚げがぐっと良くなります。
- アジサイは小さな花(といっても実際はガクです)をたくさん咲かせるために栄養が必要です。切り花栄養剤を使用すると長く楽しめます。

お家で簡単! 3ステップアレンジ

- ① バスケットの中に器をセットして水を張ります。アジサイとベビーハンズは短めにカットし、水に浸かる部分の葉を取り除きます。
- ② 器にふわっと載せるようなイメージでアジサイを活け、バスケットからあふれるようにベビーハンズの枝をあしらいます。
- ③ クレマチスは茎の切り口をハサミの背などでたたきます。爽やかな細葉も生かしながら、花と葉を遊ばせるように長めに活けましょう。アジサイの花の間に挿してもOKです。

梅雨の情緒、優しい雨にうつろう青

古くは万葉集にも詠われ、日本人に長く愛されてきた花。季咲きのアジサイはしっかりと水を宿したような美しさが魅力です。海外でも盛んに品種改良・栽培され、アンティーク調など輸入品も多く出回ります。幕末、オランダ人医師シーボルトが最愛の「お滝さん」の名をとって「オタクサ」と紹介したというエピソードも。

